

なくそう交通事故、集めよう地域のか

道内の交通事故による死亡者数が、六月五日、昨年より二十日も早く全国一となりました。過去十年で最も早いペースです。悲惨な交通事故を少しでも減らすためには、地道な活動の積み重ねが大きな力となります。今月は、区内で行われているこうした取り組みを紹介いたします。



七月七日、発寒西公園の芝生広場。朝から降り続く激しい雨にもかかわらず、黄色いたすきを掛けた約四百人の市民が集まり、第十五回発寒交通安全総決起大会が開催されました。恒例の趣向を凝らしたアトラクションは中止となりましたが、子どもからお年寄りまで地域一丸となつて、交通安全への誓いを新たにしています。

区内では、このような大会をはじめ、パレードや地区のお祭り、研修会など、さまざまな形で地域主催の交通安全行事が行われています。

「おはようございます」毎朝八時ころから、発寒南小学校の通学路に子どもたちの元気な声が響きます。交差点で右手を上げ、次々と登校してくる子どもたちが笑顔で迎えるのは、発寒地区交通安全実践会会長の鳴海光治さん（七〇）。交通安全指導員として長年活



発寒地区交通安全実践会会長の鳴海さん

動を続けており、特に昨年からは、通学路での指導を一日も欠かさず行っています。

鳴海さんが交通安全活動にかかわるようになったのは、昭和三十年代の町内会づくりのころから。昭和四十五年には交通安全こぐまクラブを結成し、三歳から五歳までの子どもとその母親に、実技を通じて交通ルールを学ぶ機会を提供するようになり、その活動は現在も続いています。「地域みんなが子どもたちに声を掛けるようになれば、交通安全を願う気持ちは通じるはずですよ」と話す鳴海さん。西区に交通安全教育施設ができることを夢に見ながら、発寒の街で声掛けする日々が続きます。

昨年西区で発生した交通事故は、1,189件。手稲区が分区した平成元年以降で、最も多くなりました。事故の原因としては、前方不注意や左右の安全不確認、脇見運転やスピード違反が依然として多く、歩行者の安全不確認横断や自転車の一時停止無視も多く見られます。最近では、お年寄りが自宅近くで事故に遭うケースも増えています。

